

パオちゃん's EYE

2017年9月1日 発行 No.6

恐鳥現る！

私は子どものころ「恐竜は中生代の終わりに絶滅した」と思っていました。それは当時のいわば「常識」のようなものでした。思い描いていた映像は、荒涼とした砂漠のような場所でティラノサウルスとトリケラトプスが死闘をくり広げ、空にはプテラノドンが飛び、遠くには噴煙を上げる火山。そこへ宇宙の彼方から巨大な隕石が……。プテラノドンは恐竜の仲間には入れないなどといった情報は後から得ました。一部の恐竜と鳥類の類縁性は昔から指摘されていましたが、最近になって「恐竜は絶滅していない。獣脚類の一部は鳥類として生き残っている」という説が強く支持され、新たな常識となりつつあります。

中生代が終わり、迎えた新生代の地上にはティラノサウルスもトリケラトプスもすでにいません。そこに現れたのは、恐鳥類とよばれる、地上を走り回る大型の肉食鳥類でした。その一種のガストルニス、全長が2mを超え、頭が大きく、かぎ型の大きなくちばしをもっていました。前足は短く、飛翔性の鳥では胸骨に竜骨突起が発達し、翼を動かす強大な筋肉が付着しますが、それができないことから飛翔することはできなかったようです。後ろ足は長く頑丈で、地上を走り回り、小型の動物を捕食していたと考えられています。

大型の肉食恐竜は地上における食物連鎖の頂点に位置する捕食者でした。生物の種が生息する環境において果たしている生態的な位置や役割を生態的地位（ニッチ）といいます。地上走行性の大型肉食恐竜が占めていたニッチは、絶滅によって空席となり、地上走行性の大型肉食鳥類が占めるようになりました。そのニッチはその後、地上走行性の大型肉食哺乳類へと入れ替わっていきました。



ガストルニス

江田伸司(動物担当)

【新生代古第三紀始新世前期、アメリカ】

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2 - 6 - 1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには
いろんな情報がいっぱい♪
「倉敷市立自然史博物館」で
検索してみよう！ パオより

